

虚子記念文学館投句特選句・令和四年三月

稲畑廣太郎 選

あたたかや虚子館といふ掌

兵庫 藤井啓子

啓蟄や明日へと歩み出す我ら

兵庫 池田雅かず

追憶の風に包まれ梅の庭

兵庫 川村ひろみ

鉛筆が色鉛筆へ山笑ふ

兵庫 塚本武州

悲しみに祈る心に梅香る

東京 荒川ともゑ

如月の光の中へ汀子の忌

愛知 小野 薫

庭椅子に汀子師かもと春の暮

兵庫 小柴智子

明日待たず花待たずして逝きたまふ

兵庫 中村恵美

み吉野のさくららふぶきに遊ばれよ

兵庫 田村恵津子

賜はりしことばの力梅真白

兵庫 武田奈々

(青少年)

入選句・令和四年二月

春水や供花は志士の墓前にて	三重	水越晴子	舞ひやまぬ優雅な翼鶴帰る	兵庫	奥田好子
一門を震撼させし春の雷	兵庫	森岡喜恵子	主なき館を包む春の雨	香川	葛原由起
六甲も比良も比叡も山笑ふ	石川	辰巳昌彦	師の言葉深く大きく梅白し	兵庫	涌羅由美
啓蟄の庭動き出す汀子晴	大阪	石橋玲子	淡き日の差し白梅の翳青く	兵庫	中井陽子
先生のお留守を鳴きぬほととぎす	京都	宮本幸子	春光に包まれミサの静寂かな	兵庫	山田佳乃
追悼の心重ねて梅寒し	三重	福森志津子	日に風に遺愛のミモザ解け初む	兵庫	玉手のり子
汀子師のとはの大空花ミモザ	大阪	谷本房子	雛語る師の声耳に残りをり	香川	飛田久子
山笑ふ獣の子らの遊ぶ声	三重	池本準一	制服のリボン正して卒業す	兵庫	高橋純子
急行の各駅停車山笑ふ	三重	松村咲子	万蕾といふものの芽を残されし	兵庫	岸川佐江
一門の慟哭二月二十七日	兵庫	岩水ひとみ	春の風邪貴方と居れば治るはず	石川	辰巳葉流
涅槃西風寝釈迦の衣をめくるかに	兵庫	槌橋眞美	遺されし言葉は力物芽出づ	兵庫	辻 桂湖
江戸前の味舌鼓打つ鱈	奈良	河村久美子	華やかな師を偲ぶかに春時雨	京都	山崎貴子
春霖や面影を追ふ虚子館	兵庫	黒田千賀子	梅が香や門に引越荷の並び	兵庫	永沢達明
汀子先生花のつづきを見ず旅へ	大阪	立入宮子	師の二階見上げし日々や梅の花	兵庫	辻田あづき
濡れながら寄り添ふ番春の雨	兵庫	宮本露子	春雨の降るたび山を塗り替へぬ	大阪	山田 天
梅苑のしづかに混んでゐる日和	大阪	杉山千恵子	轉りやたつた一人の朝迎え	兵庫	吉村玲子
芦屋川歩み春愁とめどなく	大阪	田邊育子	地球よ森よ風の精山初音	兵庫	吉村玲子
色淡し屈んで物芽見ることに	鳥取	棕 則子	取り巻き仰ぐ一本の山桜	京都	木村三球
疫病に慣れて怖れて雪の果	鳥取	棕 誠一朗	悲しみの目には眩しく花ミモザ	奈良	杉森大介
思はざる訃報に東風の吹き止まず	鳥取	山之口倫子	世を開き春に目を染め愛かたる	奈良	堀ノ内和夫
五十年ぶりの相傘春の雨	兵庫	西村みどり	汀子亡き館の庭の春の蝶	兵庫	長安悦子
桃の日の姉妹ならではてふ会話	兵庫	深尾真理子	ミモザ咲く塀に俯しのびけり	東京	長安悦子
放物線一打は春の空彼方	兵庫	多田羅紀子	餌付けされ湾に残れる鴨となる	大阪	しのぶ日月
車椅子に残るくぼみや梅真白	大阪	武田優子	春光のベンチの我に鳩寄り来	兵庫	しのぶ日月
闘ひし祈りの人よ実朝忌	兵庫	奥村 里	師の御句を紅あせぬ落椿	兵庫	山村千恵子
開け放つ土間に今年もつばくらめ	徳島	奥村 里	松が枝に届く満ち潮春の島	滋賀	石川多歌司
駄作にも笑顔と慈愛水温む	徳島	奥村 里	花便り唯それだけの母のふみ	新潟	安原 葉
押し上げる力のままの春の土	兵庫	河野ひろみ	春燈ためらひ見せぬ塗師の筆	兵庫	安原 葉

檜皮葺とび悠悠と桜東風	兵庫	足立朱麻
ミモザ咲く街角に聞く暮れの鐘	兵庫	太平楽太郎
葉陰より覗くごとくに壺董	兵庫	山岸正子
鉛筆をけづるが楽し木の芽風	兵庫	金延峰子
物芽出づ三代句碑に偲びをり	兵庫	入谷千恵子
母許の朝寝てふ娘の至福かな	兵庫	金田八江子
主逝きミモザの風となりにけり	兵庫	上田光子
憧れの師との別れや春夕べ	兵庫	三木雅子
人の世も女人は強し花通草	兵庫	大西美知子
木蓮の小さき蕾や黙禱す	兵庫	山崎渺美
朝寝して咎められぬも哀れなり	兵庫	道中義臣
朝寝など勿体なくて富士の旅	奈良	芳林淳子
春風にひらり異動の辞令かな	神奈川	小堀公美子
虚子像と春雨を見る谷崎の瞳	東京	塚田 琴
涙拭くマスク卒演吾子の歌	兵庫	伊集院秀樹
雛の日や息災色のちらし寿司	兵庫	高市敦之
花曇ルイス・キャロルの偏頭痛	埼玉	土井洋子
関の声かとも初音の源氏山	石川	伊東弥太郎
瞼閉じ花の香りにひと休み	千葉	樽谷幸龍
春昼や柱時計も無口なり	神奈川	金子三奈乃
花冷えの泊りを延ばす芦屋かな	岡山	竹本 正
腰屈め庭の木瓜見る文学館	神奈川	竹本康洋
言えぬままマドンナのまま卒業す	東京	宮村土々
上向いて空に満ちたり紫木蓮	兵庫	江川由美
春昼の三角ベース子らの声	兵庫	阿曾宏之
意を受けしごとくに野火の走りゆく	神奈川	進藤剛至